

## 息子と歩いた8年の山旅

4期 佐藤秀紀

### はじめに

ここ8年間、息子(次男 佐藤 誠(51))との山旅を楽しんできた。息子は東京在住のサラリーマン(技術屋)である。昨年、こちらの体力の限界を覚えて、その山旅を終わりにしたので、それら山旅を振り返ってみたい。

ことの起こりは8年前の正月だったか、帰省中の息子に「一度屋久島の宮之浦岳を登りたいのだが、一人では心細いし・・・」と話したところ、「付き合っても良いよ」と返事が返ってきた。息子の山登りに関しては、小さい頃から中学生頃までは毎年研究室の学生との白山登山について一緒に登っていたが、大学生や社会人になってからは登山の話あまり聞いたことがなかった。しかし、「付き合ってもいいよ」との返事には正直ありがたいと嬉しかった。それから8年間も息子との毎年の山旅が続くとは当時は思ってもみなかった。

これまでの山旅のリストを表に示す。思えばよく続いたものである。山を選んだのは主に私の方だが、息子も次第に山行を単独でもやるようになり、候補選びでも提案してくれるようになったのは大変嬉しいことであった。また、私も年と共に歳をとっていき、体力的な不安や計画の面倒さもあって、息子が計画を立ててくれ、一緒に同行してくれる山旅は本当にありがたいと、嬉しい限りであった。心より、感謝している。

これらの山旅の中から、特に思い出の残るシーンなどをいくつかを記してみたい(本誌投稿の山旅はタイトル横に記した)

### 宮之浦岳

最初の山旅は前述のように屋久島の宮之浦岳を縦走し、島一番の屋久杉「縄文杉」を見る山旅であった。

屋久島安房の民宿に前泊し、淀川登山口から山に入った。屋久島特有の花崗岩の奇岩や山道を通って宮之浦岳(1936)に登ったが、ガスと強風で遠望きかず、早々に通過。無人の新高塚小屋に午後1時過ぎに到着。それほど大きくない小屋は、ま

もなく多くの登山客でいっぱいになり、最後には入口土間で寝袋を広げる者も多数いた。翌日小屋を出て1時間ほどで屋久島最大の屋久杉「縄文杉」を見ることが出来た。樹齢は推定で2700年以上7000年ともいわれる巨木である。ただし屋久島の特異な環境の為(多雨地帯、花崗岩大地など)、成長は大変遅く、巨木の姿は貫禄があり、神秘性を感じさせる。最低推定年数でも、紀元前700年も前から生きてきたことになる。正しく「縄文杉」である。この印象は強いものがあった。



「縄文杉」前にて(2014. 4. 28)

### 仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳

南アルプスは全く知らなかったなので、この方面の山に登ることにした。

まず最初に仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳である。この山登りは終始雨にたたられた。北沢峠の「こもれば山荘」に泊まって翌朝仙丈ヶ岳に登ったが、頂上付近では雨・風強く周囲がみえないほどであり、雨具を着ていてもずぶ濡れで、山から下って水仙小屋に入った時には靴下まで水浸しであった。夜中小屋で寝ていても屋根をたたく雨音によく眠れない程であった。翌朝誰も出発する気配のない所を「行けるところまで行こうか」ということで



甲斐駒ヶ岳(2023. 8. 16)

出発した。雨はやんだが依然としてガスは深く、甲斐駒ヶ岳への登りは急登であるが、時折ガスの切れ間より見える摩利支天を頼りに登り、花崗岩の白い砂坂を登って、なんとか頂上に着いた。これら二つの山の頂上の記念写真は二つともガスで真っ白の中の写真が残っており、当時を思い出させる。厳しい状況程、後には思い出として残るものであろう。

### 白峰三山、鳳凰三山

前回の仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳があまりにも悪天候の中の登山で、どのような山容の山に登ったのかさえもわからないくらいであったので、是非近くの山からその山容を眺めてみたい、との気持ちもあり、白峰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳）、鳳おび鳳三山（薬師岳、観音岳、地藏岳）を次に登った。

北岳(3193)はどっしりした山容で、富士山に次ぐ第二の標高の山である。天候はよく、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳を今回はしっかり見ることが出来た。このような山に登ったのだと。また、このあたりではどこでも富士山の優美な山容を遠望することが出来るのが楽しい。特に農鳥小屋に泊まった翌朝、小屋から見た雲海の中の夜明けの富士山の景色は忘れがたい。また、農鳥小屋の古い山小屋の雰囲気と名物親父も忘れがたい。なお、谷を隔てて鳳凰三山も良く眺められ、次にはここに登ろうと決めた。

鳳凰三山では、前回歩いた白峰三山：北岳、間ノ岳、農鳥岳の3000m級の稜線の連なりを一気に眺めることが出来るのも素晴らしかった。また地藏岳の賽の河原地蔵越しに見る甲斐駒ヶ岳、地藏岳オベリスクの威容も忘れがたい。



鳳凰三山(北岳、間ノ岳、農鳥岳を背景に、2015. 9. 20)

### 燕岳・大天井岳・常念岳・蝶ヶ岳

独特の花崗岩の山容、コマクサ群落などが印象に残る燕岳、天候良く、槍穂高連峰がずっと見られた尾根歩きの展望のすばらしさ、蝶ヶ岳から上高地徳澤までの下り長さに閉口した思いが残る。

### 飯豊連峰（「やまざと」Vol. 32）

東北の奥まった山を歩いてみたい、残雪の稜線歩きと見事なお花畑を見てみたい、ということから飯豊連峰に行くことにした。東北の山は奥深く、前泊奥胎内ヒュッテも含めて4泊5日の長い山旅となった。縦走中3泊の山小屋は全て管理人はいるが寝袋持参・自炊のみ。水場も離れていることもある。この領域では登山者が少なく、静かで、ゆったりした、高山植物が豊富な山並みを時には残雪を踏みながら歩くのが魅力。ヒメサユリ、ミヤマウスユキソウ、イイデリンドウ、ハクサンイチゲ、シラネアオイ、ニッコウキスゲなどの群落が見られて楽しかった。



飯豊連峰・頼母木小屋にて(2017. 7. 13)

### 朝日連峰（「やまざと」Vol. 34）

飯豊に次いで朝日を昇る予定にしていたが前年肺炎になり1年延期しての山行となった。麓1泊、山中2泊の縦走である。一泊目の大鳥登山口宿から翌朝宿の車で泡滝ダム登山口まで送ってもらって登山を開始。当日は気温高く急登もあって、体力消耗激しくバテてしまった。頼りの息子もダウン寸前で、休憩の連続となった。以東小屋まではまだかなりあり、どうすべきか本当に困った。幸い、息子はなんとか回復し、這う這うの体で予定時間を大幅に遅れて小屋に到着。これまでの山旅で最も危機的状況であった。残りの2日は疲れを引きずった山旅ではあったが、天候はまあ

まあで、ゆったりした尾根歩き、高山植物ミヤマウスユキソウ、タカネマツムシソウ、ハクサンフウロ、ハクサンイチゲなどの群落に慰められた。また、最終日の早朝、大朝日小屋からの大朝日岳往復と山頂で見たご来光は素晴らしかった。

### 御嶽山（「やまざと」Vol. 35）

2020年、コロナ禍で山小屋が大変な時期、なんとか小屋が泊まれるというので登った。御嶽山は2014年の突然の噴火で友人・同僚の一人が亡くなった山であり、是非とも慰霊の登山をしたいと思っていた。また、白山からいつも雲海の彼方に突き出ている優美な山容を眺めてきた山でもある。事故から6年目にして、ようやく頂上直下のシェルターの横にある慰霊碑に、持参した蝋燭と線香を捧げ手を合わせることができた。二ノ池ヒュッテに泊まった翌朝、摩利支天山に登ったが、前日の最高峰剣が峰のがれきの山とは違って、賽の河原の広大な谷や尾根に咲く高山植物など、独特な雰囲気のある山である。

### 鹿島槍ヶ岳

その優美な山容と高山植物コマクサ、コバイケウなどの群落など絵になる景色が印象的。

### 大峰山

修験道、信仰の山であることは知っていたが、行ってみると、ほとんどの人は白装束で登り、いたる所に講が建てた石碑が建てられて歴史を感じさせられる。大峰山寺の宿坊に泊まったが、ここでも講の人達がお勤めをしていた。翌朝、そこから眺めたご来光は見事で忘れられない。山の自然がおのずと導く大いなるものへの畏敬が信仰に結び付くことが理解される気がした。山上ヶ岳から弥山小屋までの奥駈道は長く、最後はへとへとになってようやく小屋にたどり着くことが出来た。体力の衰えを実感して、今回をもって息子との山旅を終えることに決断した次第である。翌日、八経ヶ岳を越えて天川村に降りる、これまた長い下り道の途中でスマホを落とすアクシデントまでやってしまった。ほとんど人の通らない道だが、幸いにも後を歩いた人がいて警察に届けてくれたお蔭で後日無事スマホは手元に残った。息

子との最後の山旅は大変苦勞をした山ではあるが、信仰の山を体験させてくれ、幸運をもたらしてくれた山であった。



大峰山系最高峰・八経ヶ岳にて  
(2022. 8. 1)

### 終わりに

ふとしたことから、息子との8年間にも及ぶ山旅を経験することが出来た。改めて息子にいろいろな意味で感謝したい。これらの山行はその時々多くの貴重な体験を与えてくれただけでなく、この文章を書くために再度記録やアルバムを振り返って思うように、何時までも貴重な思い出として幸せ感を与えてくれる財産でもあるのである。また、この歳で山旅が出来た身体・環境へも感謝したい。人生は素晴らしい。もろもろに感謝したい。

息子（佐藤 誠）との8年の山旅記録				
年	月日	旅程	登山名	行程
2014	4/26 4/30	4泊5日	屋久島・宮之浦岳	4/26JR鹿児島中央→屋久島安房民宿泊、4/27淀川口発、新高塚小屋泊、4/28縄文杉經由荒川口、安房民宿泊、4/29宮之浦港発、指宿温泉「吟松」泊、4/30指宿→知覧特攻平和会館→JR鹿児島中央→金沢
	8/14 8/16	2泊3日	仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳	8/14JR身延→北沢峠・こもれび山荘泊、8/15仙丈ヶ岳、北沢峠・仙水小屋泊豪雨、8/16甲斐駒ヶ岳、広河原→奈良田→甲府→金沢
2015	7/18 7/20	2泊3日	白峰三山（北岳、間ノ岳、農鳥岳）	7/18JR甲府→広河原、白根御池小屋泊、7/19北岳、農取小屋泊、7/20農鳥岳、奈良田温泉→広河原→JR甲府→長野→金沢
	9/19 9/21	2泊3日	鳳凰三山（薬師岳、観音岳、地藏岳）	9/19東京息子宅泊→9/20甲府→夜叉神峠、南御室小屋泊、9/20鳳凰三山、青木鉱泉→JR葦崎→松本→長野→金沢
2016	8/10 8/12	2泊3日	燕岳、大天井岳、蝶ヶ岳	8/10JR穂高→中房温泉口、燕山荘泊、燕岳往復8/11大天井岳、常念小屋泊、18/12常念岳、蝶ヶ岳、徳沢、上高地→JR松本→長野→金沢
	7/12 7/16	4泊5日	飯豊連峰	7/12JR新潟→JR中条→奥胎内ヒュッテ泊、7/13豪雨、登山口、頼母木小屋泊、7/14北股岳、御西小屋泊、7/15大日岳往復、飯豊山、三国小屋泊、7/16地藏山、川入→「いいでの湯」→JR山都→新津→妙高高原→金沢
2019	8/12 8/15	3泊4日	朝日連峰	8/12JR新潟→JR鶴岡→大鳥口・朝日旅館泊、8/13泡滝ダム、以東小屋泊、8/14寒江山、竜門山、西朝日岳、大朝日小屋泊、8/15大朝日岳往復、小朝日岳、朝日鉱泉→JR左沢→山形→大宮→金沢
	8/2 8/3	1泊2日	御嶽山	8/2JR木曽福島→御嶽ロープウェイ、剣ヶ峰、慰霊碑参拝、二ノ池ヒュッテ泊、8/3剣ヶ峰ご来光往復、摩利支天往復、ロープウェイ→JR木曽福島→長野→金沢
2021	7/22 7/24	2泊3日	鹿島槍ヶ岳	7/22JR長野→扇沢、種池山荘泊、7/23爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳南峰・北峰、冷池山荘泊、7/24爺ヶ岳、扇沢→JR長野→金沢
	7/30 8/2	3泊4日	大峰山、大台ヶ原	7/30近鉄柏原神宮前→洞川温泉、大峰山寺宿坊桜本坊泊、7/31大普賢岳、行者還小屋、弥山小屋泊、8/1八経ヶ岳、川合、柏原神宮前、ホテル泊、8/2樺原神宮前→BS大台ヶ原、日出ヶ岳、周回、ビジターセンター、BS大台ヶ原→樺原神宮前→京都→金沢